

金の卵

萬運輸（東海林憲彦社長、横浜市鶴見区）の村山靖幸さん（31）は、横浜営業所（同区）で4ト冷凍車に乗務し、その運転の腕前は社内でも高い評価を得ている。横浜環境保全（高橋義和社長、中区）の横浜大志さん（23）は、同社初の大卒ドライバー。学生時代に学んだ海洋環境は、同社が掲げる「環境保全事業を通して地域社会への貢献」の企業ミッションの実現にもつながることから、今後の活躍が期待されている。（吉田英行）

達成感たまらない

村山さんは山形県鶴岡市出身。2015年2月に庄内営業所（鶴岡市）で採用されたが、京浜地区のドライバー増員に対応するため、横浜営業所（横浜市鶴見区）配属となった。未経験で入社し、18年2月に会社の補助を受けて大型自動車免許を取得。3月にはフォークリフト技能の資格も取得した。

主に4ト冷凍車に乗務。氷菓メーカーの倉庫から店舗、卸業者の倉庫への配送を担う。都内への配送がメインだが、静

イク、乗り物全般が好き。免許を取ったので、行く行くは大型、中でも車体にカラフルな絵が描かれたデザイントラックに乗りた

岡、山梨への配送もある。い

「幼い頃から働く車に興味があった。電車、バの多さに驚いた。走るペ



萬運輸 村山 靖幸さん

運転の腕前、高評価 初の大卒ドライバー

横浜環境保全 横浜 大志さん



保全の大卒ドライバー1号として18年4月に入社。瀬谷事業所（横浜市瀬谷区）に所属し、2ト平ボディ車で横浜市内の粗大ごみ回収業務に従事している。

氏名の通り、横浜育ちで横浜の企業への就職を志して就職活動に臨み、「市が特に重視するごみ対策に関わる仕事であり、社名も自分の名字と縁があると感じて、この会社を選んだ」。

北里大学海洋生命科学部卒業。生き物や海のこと全般に興味を持ち、海洋環境測定を研究。卒業論文のテーマは、神奈川県山田町の海の環境調査だった。

「『未来を子供たちのために環境保全事業を通して地域社会に最も貢献する』という企業ミッションにも共感した。大学で海の環境を学んできたが、企業ミッションの実現にもつながると思う」と期待を込める。

「スや割り込みのタイミングも違う。路上駐車も多い。『プロドライバーとして務まるか不安だったが、今は首都高速道路を走るのにもすっかり慣れた』。

氷菓の配送では、運転だけでなく温度管理にも気を使う。設定温度のマイナス30度を保つよう、荷室の開け閉めや荷積み・荷下ろしを迅速に行うよう心掛けている。一日の仕事が無事終わった時

達成感たまらない」と阿部茂樹所長（43）は「車好きだけあって、運転が上手で商品事故も皆無。いつまでも横浜にいたいのだが、あと2年で故郷の庄内営業所に戻る約束。庄内で所長の右腕となれるよう、横浜にいるうちに運行管理者試験にも挑戦して欲しい」とエールを送る。

直属の上司である同事業所の黒沢孝彦所長（33）は「粗大ごみ回収は2人1組の仕事なので、相手とのコミュニケーションが重要だが、それがとてもうまく出来ている。今後、本人や社長とも相談して、総合職としての活躍も見込んでい

横浜の企業を志す

乗務車両には、自身で

描いたワシの絵と『ゴミトリます』とのキャッチコピーが鮮やかにプリントされている。同社の工場にある専用装置でデザインプリントされたものだ。「新車が入るタイミングだったので、自作の絵を車体にプリントしてもらった。出来上がった時は感動した。獲物を捕らえるワシのように、確実にごみを回収する」。

19年4月には、新たに2人の大卒ドライバーが入社する予定で、「将来的には会社全体のことを考えて、何か自分のできることを見つけたい」と意気込む。